

7 国立夜須高原青少年自然の家について

7.1 国立青少年教育振興機構とは

独立行政法人国立青少年教育振興機構(平成18年4月発足)は文部科学省所管の組織で、我が国における「青少年教育の振興」及び「健全な青少年の育成」を目指し、海・山・川の自然あふれる27の地方施設(国立青少年交流の家・青少年自然の家)と都市型の青少年教育施設である国立オリンピック記念青少年総合センターを有し、自然体験活動や集団宿泊活動をはじめ、科学・文化芸術・国際交流といった多様な体験活動の機会と場を長年にわたり提供しています。

7.2 青少年教育振興機構のMVV(ミッション・ビジョン・バリュー)

私たちの使命 — Mission

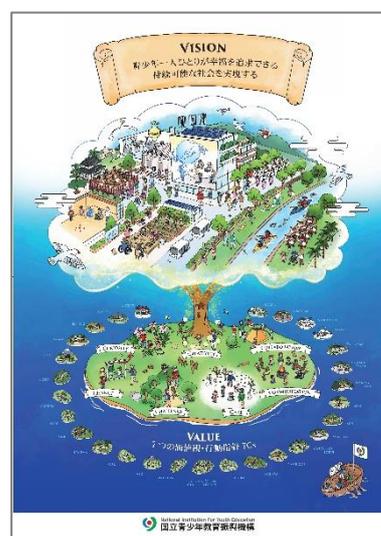
青少年教育の振興、健全な青少年の育成

私たちが目指すもの — Vision

青少年一人ひとりが幸福を追求できる持続可能な社会を実現する

私たちの価値観、行動指針 — Value

1. Curiosity 私たちは、何事にも好奇心を持ち、
2. Change 枠にとらわれずに変化し、
3. Challenge 失敗を恐れずにチャレンジします。
4. Care 私たちは、すべての人たちを思いやり、
5. Communication 多様性を重んじ、対話と共感を大切にします。
6. Collaboration 私たちは、多様な人々や組織と協働し、
7. Creativity 青少年のさらなる体験の場を創造していきます。



私たちの公約 — Commitment

私たちはミッション・ビジョンを達成するために、28施設が一つの船に乗って、7Csを羅針盤に七つの海(7Seas)を渡っていきます。

7.3 当施設の特色・取り組み

当施設は、人と自然の関わり合いの中で育まれてきた「里地里山の自然と文化」が息づく場所に位置しています。

そこには、針葉樹の造林地、かつて燃料や肥料を産出した雑木林、生活道具を産み出した竹林や草原、食料生産の場である田畑、それらを支える小川やため池などがあります。また、人間の営みにより長い年月にわたって維持・形成された二次的自然環境が存在し、多様で貴重な生物が生息しています。

このような人と自然が共生する中で育まれた生活の智慧(ちえ)は伝統文化を育み、地域の祭事と共に、「里地里山」文化として受け継がれてきました。

一方、昨今の農山村地域の少子高齢化によって、耕作放棄地の増加、文化継承の危機、森林の荒廃、竹害の拡大など、里地里山ならではの問題も発生しています。

里地里山の「美」「醜」の両面を併せ持つ地の特徴を活かし、『里地里山』の自然と文化に根ざした青少年教育施設」として体験の場や機会を提供しています。

(1)ESD・SDGsの取り組み

“持続可能な社会”を目指して、その人材づくりのための教育(ESD)や世界共通の目標(SDGs)への取り組みを推進しています。

令和2年10月、当施設は「地域 ESD 活動推進拠点」に登録されました。

(2)「早寝早起き朝ごはん」国民運動の普及啓発

家庭における食事・睡眠などの乱れを、各家庭や子供の問題として見過ごすことなく、社会全体の問題としてとらえ、子供たちの基本的な生活習慣を確立させ、生活リズムの向上を図るための取組を推進しています。

(3)民間企業等との連携

民間企業等の皆様と連携することで教育事業等を質的・量的に拡充し、更なる青少年教育の振興に貢献できるよう様々な試行に取り組んでいます。

<マスコットキャラクター>

創立20周年を記念して当施設のマスコットキャラクター「きずレンジャー」が誕生しました。当時中学2年生の女子生徒がデザインしたこのキャラクターは、夜須高原の特産品「木酢(きず)」を題材に作成されました。

「木酢」は柑橘類で「筑前姫酢」とも言われています。かぼすより皮が薄く、酸味がまろやかで果汁がたっぷりなのが特徴で、旬は10月～12月です。

